「読むこと」（文学的文章）学習指導案

**第２学年国語科学習指導案**

指導者　　三豊市立仁尾中学校　　藤村　章太

**１　単元名**　文章の構成や表現を吟味し、筆者の考えに迫る

　　「枕草子」、「徒然草」（新しい国語２　東京書籍）

**２　単元について**

　（１）　「枕草子」は平安時代に清少納言が書き記した文章であり、古典の三大随筆の一

　　　　つに挙げられており、小学校から高等学校までの教育現場で読み親しまれている。

　　　　筆者が仕えていた中宮定子からの命により執筆を始め、内容としては大きく「類

　　　　聚的章段」、「随筆的章段」、「日記的章段」の３つに分類される。他の人が気づかな

　　　　い事柄を取り扱う「細やかな観察眼」や、よいものはよい、嫌なものは嫌と言い切

　　　　る「批評精神」など、筆者独自の切り口で書き綴られている。

　　　　　随筆文は筆者が経験したことから感じたことや考えたことを自由に書いてある

　　　　ため、自分との比較によって考え方を広げたり深めたりすることができるのが特

　　　　徴である。古典教材である「枕草子」を現代語に直した文章を随筆文として読み、

　　　　文章の構成や表現の効果を吟味することによって、筆者が体験した出来事に対す

　　　　る考え方や筆者の性格などに迫ることができる。また、千年以上前の人と現代人

　　　　との考え方は変わらないのだということに気づくことができる。活用教材として

　　　　扱う兼好法師の「徒然草」も古典の三大随筆の一つである。文章構成の意図を考

　　　　察することで、筆者の考えを理解することができるであろう。この活動は〔思考・

　　　　判断・表現〕における、「Ｃ　読むこと」の指導事項「エ　観点を明確にして文章

　　　　を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること」

　　　　と関連する。随筆文として読むことで内容理解が深まり、古典教材への親しみを

　　　　感じることができれば、その後の古典学習へと繋げやすくなるであろう。

　（２）　生徒たちは小学校で「春はあけぼの」を暗唱しており、現在も覚えている生徒が

　　　　多い。中学校での古典学習としては前年度に「伊曽保物語」や「竹取物語」を既習

　　　　しており、歴史的仮名遣いに注意した音読や、現代語訳を参考にしながら内容を

　　　　理解することができている生徒が多い。その一方で、古文独特の表現や助詞が抜

　　　　けているなどの理由で読みにくいと感じて、内容を深く理解できていない生徒も

　　　　いる。そこで、古文を現代語訳のみで読むことによって苦手意識をなくし、文章

　　　　と向き合うことができると考えられる。

　　　　　また、随筆文として１学期に「字のない葉書」を既習した際、筆者に届いた父親

　　　　からの手紙のエピソードや家族との関わりを捉えながら、筆者から見た父親とは

　　　　どんな人物であるかについて考えることができた。自分の家族と比べながら共通

　　　　点や相違点を考える生徒がいる一方で、時代背景が現在と大きく異なるために筆

　　　　者の体験を理解しきれていない生徒もいた。できるだけ生徒自身にとって体験し

　　　　たことのある文章である方が筆者の考えを理解したり、自分と比較したりできる

　　　　であろう。

　（３）　古典の随筆文において、出来事（経験）に対する筆者の考えを読み取る力を習得

　　　　するために次の手立てを講じたい。

　　　　・　古典教材を現代語に直した随筆文の読みの設定

　　　　　　原文そのままでの読みではなく現代語に直した文章を読むことによって、独

　　　　　特の表現や文体の違いによる生徒の苦手意識をなくし、積極的に内容に向き合

　　　　　えるようにする。

　　　　・　授業で扱う章段の工夫

　　　　　　「枕草子」と「徒然草」はそれぞれ何百にも及ぶ章段から成り立っているた

　　　　　め、授業の際にどの章段を取り扱うかが重要である。そこで、生徒自身が体験

　　　　　したことがあるような内容や身近に感じられる内容が描かれた章段を設定する

　　　　　ことにより、自分の考えと比較しながら読み深めさせていきたい。

　　　　・　単元全体を貫く問いの設定

　　　　　　本単元では「筆者（清少納言や兼好法師）はどんな人物だと考えられるか」と

　　　　　いう問いを考えながら学習を進めていく。「どんな人物」か判断するポイントと

　　　　　して、文章の構成の仕方（話の進め方やどんな順番で書き連ねているか）や表

　　　　　現（どのような述べ方をしているか）に注目して考えさせたい。

**３　単元の目標**

　・様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする

　　ことができる。〔知識・技能〕

　・文章の構成や表現の効果に着目して読むことで、筆者の考え方や性格について考察す

　　ることができる。〔思考・判断・表現〕

　・言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、

　　思いや考えを伝え合おうとする。〔主体的に学習に取り組む態度〕

**４　単元の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・出来事に対して筆者の考えがどのように書かれているかを知り、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 | ・文章の構成や表現の効果に着目して随筆文を読み比べることで、筆者の考え方や性格について考察している。 | ・積極的に「枕草子」や「徒然草」を読み、筆者の考えについて考察し、学習課題に沿って自分の考えを発表したりノートにまとめたりしている。 |

**５　学習指導計画（全６時間）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 習得活用 | 目標 | 学習内容・学習活動 |
| １ | 習得 | ・　「枕草子」成立の歴史を確認し、第１段の現代語訳を読んで、筆者が注目しているものを捉えることができる。 | ・　本文を通読する。・　筆者が四季において、何に注目して「良い」と感じているかを話し合う。・　文章から、「筆者がどんな人物であるか」について考察する。 |
| ２３ | 習得 | ・　「はしたなきもの」の章段を読み、筆者が「間が悪い」と感じていることについてまとめることができる。・　文章の構成や表現に注目して読むことで、筆者がどんな人物であるか考察することができる。 | ・　本文を通読する。・　「はしたなきもの」の章段から「筆者がどんな人物であるか」について考察する。・　筆者が「間が悪い」ものとして書き並べている順番や説明の仕方の意図について考える。 |
| ４本時 | 習得 | ・　改めて第１段を読み、文章の構成や表現の観点から再度「筆者がどんな人物であるか」を考察することができる。 | ・　本文の最後の「わろし」は必要であるかどうか考える。・　第一時と本時に第１段を読んだときの、筆者に対する感じ方が変化したか振り返る。 |
| ５６ | 活用 | ・　「徒然草」の「仁和寺にある法師」を読み、筆者が聞いたことや考えたことについて捉えることができる。・　最後の一文に込められた筆者の思いから、どんな人物か考察することができる。 | ・　本文を通読する。・　文章全体の内容を確認して、筆者が何を伝えようとしているかまとめる。・　最後の一文から「筆者がどんな人物であるか」について考察する。 |

**６　本時の学習指導**

　（１）　目標（習得）

　　　・　文章を読むときの観点を絞ることで、作品に対する自分の考えに変化が生じた

　　　　かどうかまとめることができる。

　　　・　文章の構成や表現に注目し、筆者がどんな人物であるか自分の考えを深めるこ

　　　　とができる。

　（２）　学習指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習内容・学習活動 | 予想される生徒の反応 | 教師の支援 |
| １　「枕草子」第１段の現代語訳を音読する。２　「はしたなきもの」の考えと似ている部分を確認する。３　学習課題について考える。　（１）　個人で考える。　（２）　全体で考える。４　筆者がどんな人物　であるか考える。５　本時を振り返る。 | ・　冬の段の「わろし」のところは批判的な考えだから同じだ。【学習課題】第１段の最後の一文は必要か【必要】・　良いと思うことだけでなく、批判的なことも書いた方が共感を得られそうだから。・　冬の白さが良いと言っても、燃え尽きた炭は良くないという考えがよく分かるから。【必要でない】・　最後が批判で終わると嫌な人だと感じるから必要ない。・　季節の良さを語っているのだから、わざわざ書かなくていいから。・　他の人が気づかないような視点で物事を見る目がある人物。・　最後に少し批判を入れている、どこか嫌味な感じのある人。・　構成に注目して読んでみると、筆者が伝えたいことが最後に来ているように感じた。 | ・　それぞれの立場を可視化するために、名前磁石を用いる。・　なぜ他の季節に「わろし」がないか追発問し、構成について考えさせる。・　第１段からの考察される人柄であり、断定されるものでないことを確認する。・　第一時で読んだときと、筆者に対する捉え方に変化があるかを振り返させる。 |

　（３）　評価

　　　・　文章を読むときの観点を絞ることで、作品に対する自分の考えに変化が生じた

　　　　かをまとめることができたか。

　　　・　文章の構成や表現に注目して読むことで、筆者がどんな人物であるか考えを深

　　　　めることができたか。